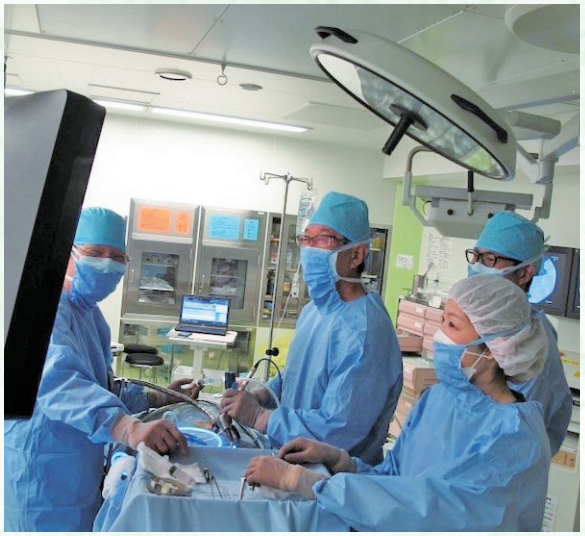
脊椎内視鏡下手術で国内屈指の治療実績 切開範囲が小さく病変が確認し易い術式

早期の社会復帰可能 医療技術の進歩追求



「脊椎内視鏡下手術」

母校和歌山県立医科の教授として後輩を指導した経験を持つ『角谷整形外科病院』の吉田宗人院長は、米国で開発された低侵襲の脊椎後方内視鏡手術法を先駆的に導入したほか、脊椎内視鏡下手術で国内トップクラスの手術実績を有する日本脊椎脊髄病学会脊椎脊髄外科専門医だ。複数の病変を持つ難症例に対し複数の医師が別々の内視鏡下手術を同時に行うタンデム手術で短時間治療も実現し、腰椎椎間板ヘルニアや腰部脊柱管狭窄症、頚椎症性脊髄症などの手術を年間500例以上施行、その高度の医療技術を求めて県内外から多くの受診者が訪れる。

吉田宗人 院長
和歌山県立医科大卒。同大名誉教授。日本脊椎脊髄病学会脊椎脊髄外科専門医。日本整形外科学会専門医、脊椎内視鏡下手術・技術認定医、認定スポーツ医、難病指定医。

「脊椎は、頚椎が7個、胸椎が12個、腰椎が5個あり、椎間板でつながっています。脊椎の中には脊柱管と呼ばれるトンネルがあり、脊髄神経を守っています。腰椎椎間板ヘルニアは、背骨の間にある椎間板が老化してひび割れを起こし、髄核と呼ばれる軟骨状のものが飛び出してくる疾患です。腰部脊柱管狭窄症は、腰部の脊柱管が狭くなり、神経が圧迫されて臀部や下肢に痛みやしびれなどの症状を来します。頚椎症性脊髄症は、脊髄が圧迫を受けて出現する症状で手足のしびれ、歩行や排尿排便の障害が出る疾患です。脊椎の疾患は、生活の質や日常生活動作に大きな影響を与えますので、早期の治療が必要です」

診 9:00〜12:00　14:00〜17:00
休 日曜日・祝日・土曜日午後

角谷整形外科病院
すみやせいけいげかびょういん
☎ 073-433-1161
住 和歌山県和歌山市吉田337
https://www.sumiya.or.jp/seikei/

治療で行う脊椎内視鏡下手術には、数々の利点があるという。

「脊椎内視鏡下手術は、2㎝ほど皮膚を切開し、内視鏡を挿入して病変を確認しながら行う手術で、背中や脇腹を大きく切開して行う従来のオープン手術と比べて傷が小さいだけでなく、病変が確認しやすいため、正確なヘルニア摘出や神経除圧が可能です。また、骨切除や痛みが少なく、合併症や出血量が少なくて済みます。重篤な脊柱管狭窄症の手術では、正常な筋肉や関節は残し、悪い部分だけを取る、理想に近い手術が実現しています。身体への大きな負担が軽減されることから早期の社会復帰が可能になります」

タンデム手術では、頚と腰の椎間7ヵ所の手術を3人で同時に施行し、約2時間で終わらせた例もあるという。

吉田院長は、国内の医療機器メーカーと共同して、操作性の高い手術器具『SYNCHA脊椎内視鏡システム』を開発したほか、内視鏡手術をより精巧かつ安全なものにするために、高精細画面のナビゲーションシステムと内視鏡を融合させた新たな術式の開発を目指すなど院長として病院をまとめ、臨床医として診療、手術、指導にあたる傍ら絶えず新しい機器開発や手術手技の進化を追及し医療の発展に全力で臨み続けている。

（ライター／斎藤紘）

『SYNCHA脊椎内視鏡システム』
吉田院長は、脊椎内視鏡下手術をより精巧かつ安全なものにするため、自身がこれまで25年積み上げてきた6000例を超える手術経験を活かし、日本の医療機器の大半を輸入に頼っている現状から、いずれは世界が「日本から輸入したい」と思える医療機器の開発に取り組み始め、『SYNCHA脊椎内視鏡システム』を国内の医療機器メーカー数社と共同で製品化、2020年より販売を開始している。この製品に名付けられた「SYNCHA（シンカ）」とはその読み方の通り「進化」という意味が込められている。そのシステムのなかの1つに和歌山県のニット編み機の世界的メーカーである「株式会社島精機製作所」の製造子会社である「株式会社シマファインプレス」との共同開発品である「SYNCHAレトラクター」があるが、地元和歌山からも発信したいという願いが実現したという。生まれ育った和歌山への地元愛が感じられる。

令和元年度「日本整形外科学会学術賞」受賞

社会医療法人スミヤ
Sumiya Social Medical Corporation